

台湾出身の人々

秦 孝 治 郎

わが日本と台湾（正確に言えば中華民國国民政府台湾省）とは、一八九五年の甲午戦争（日清戦争）で清朝政府から日本に割譲され、

第二次大戦後の一九四五年に五十年振り再び中国に復帰し、現在政府の臨時所在地となっている。一九六四年現在の総人口は一二、二五六、六八二人に達し、人口密度は毎平方キロ平均三四一人で世界中オランダに次いで第二位を占めている。

まず台湾と同志社人との密接な関係から調査すれば、一八九五年（明治二十八年）六月十七日台北市において、台湾総督府の始政式が挙行され、樺山総督と北白川宮殿下が出席された頃、わが校友後宮信太郎氏が青雲の志をいだいて渡台した。後宮人物伝とも言うべ

き西川満著『黄金の人』には、始政式間もない明治二十八年九月十八日、弱冠二十三歳で基隆に上陸し、実業界の苦難に乗りつけた。

煉瓦王、借金王、金山王を経て億万長者となり、金輸出禁止令を食って損失の哲学をなめ尽し、同志社理事にも奉仕され、終戦後は東京に帰って晴耕雨読、八十八歳で天上の人となったのである。「二十三歳にして渡台、自来、敗戦まで三十六年、住みなれた台湾を、私は誰れよりも愛している」と述懐していた。不思議にも同窓の友人、校友近藤賢二氏もまた渡台する機縁を生んだのである。近藤こま著『桐花集』に、佐々木信綱歌人が、序文中にある左の一齣を見る。「長じて明治二十二年京都同志社に入り、心

身に徹したキリスト教精神を抱いて、二十七年卒業と共に北海道に渡った。けだし同窓の友水崎基一、牧野虎次、山本徳尚氏等と共に、教師として犯罪人の教化に挺身せんとしたのである。明治青年の壮志まことに観るべきではないか。二十九年一転して台湾総督府に任官、後藤新平総督の秘書官となって人間的な修養を積まれた。」

台湾開拓当初の並々ならぬ苦勞語を、筆者は後輩として事業を共にし、近藤氏七十五歳の臨終に至るまで、親交を得た関係からしばしば聞かされたものである。同志社人が台湾を愛しまた貢献した業績は、まず記録すべき価値があるであろう。

*

同志社から輩出した台湾生れの第一人者は一八八九年（明治二十二年）誕生の周再賜氏であろう。同志社普通学校には弱冠十六歳で入学し、日本が二度の対外戦争に勝って有頂天になっていた時代だったから、かなり差別待遇の苦杯を嘗めたが、父が長老派の伝道師であり、人間はみなひとしく神の子であるとの確信からして、同志社の任命した級長や寮長には欣然と引受け一視同仁の意識と、彼の

使命感とは一生の仕事に独自の意味をもたらした。

しかし一九一五年清水安三桜美林学園長などといっしょに同志社大学神学部を卒業した彼は、直ちに就職する任地がなかった。ここで就職失敗を二度経験したのを機会に、一九二一年までオペリン大学、シカゴ大学、ユニオン神学校など滞米七年間の研鑽を重ねた。帰来同志社神学部で助教授として迎えられ、宗教心理学、基督教社会学、英語などを教えた。

せつかく母校に歓迎された彼も四年後に、時の総長の方針に飽き足らず敢然辞任の決心をして伝道界に入らんとした。これも不調に終わったとき、初対面の群馬県共愛学園理事長森川抱次氏から非常な熱意をもって校長たるん事を懇請された。僅か三、四年のつもりで前橋市の田舎街に赴任し、生徒教二十七二人、まとまった校舎もなく、そればかりか当時一万五千円の借財を背負った貧乏学校ではあったが、着任後四ヵ月目のクリスマス朝「お前はここで死ぬべきだ」との召命を感じ今日に至った。

さながら苦勞の連続ではあったが、四十年

間、一九六五年（昭和四十年）四月、七十六歳で辞任するまで学園長として、また教師として、全く死生を共にしたのである。汪修文氏は中四修業後医学に志し、医師となるや伊豆大島の無医村岡田村に永住し慈父の如く尊敬されている。清水安三氏は低開発の中国に伝道し、教育の業を創設した。周氏と汪氏とは低開発地の出身でありながら、最高の教養を身につけてわが日本の教育と医術に人柱となりつつある。

周氏と同じ時代に林茂生氏が在学していた。長身であり男振りもよく、弁舌もさわやかで成績の優秀なことは周氏に劣らなかつた。卒業後は台湾に帰って教育に従事し、淡水中学校長のかたわら同地方の重鎮であったが、行政的手腕も抜群であり、日本に対する協力が目立ったものか、終戦後どこかへ拉致され、花蓮港付近で露と消えたとの噂である。まことに哀悼追慕の念に堪えない。

*

大正五年卒の陳清忠氏は在学中ラグビーの名選手でまた音楽家でもあるが、淡水中学の育英に奉仕した。大正十年組の柯設階氏も淡水中学に在って林先輩の霊を慰めているであ

らう。

また、明治四十四年卒業の廖行生氏と大正二年卒の廖温仁氏は医学界に雄飛したが何れも大上の人である。

明治四十五年組の趙天慈氏は筆者と同級であつて台南市の私立長栄中学校々長や顧問に終始し、基督教主義教育の長老である。

同じく台南市に在つて教会の重鎮であり、事業界に成功している劉青雲氏は大正四年組であるが、慶応大学をも卒業している。今昭和四十一年八月四日台南市を訪問した時は、五十七年目の再会であり握手であつた。当時十七歳の美少年で日本語の不十分な彼を筆者が第三寮長時代に多少のお手伝いをした思い出がよみがえつた。大正四年組の李明家氏は、医学に志し、現在屏東県衛生院長の要職になり、郭馬西氏も同年組であつたが台北市の中山長老教会教師として終始している。

ついでながら台南市では分区担当の陳爵堂氏が肥料会社の重役とし、商工会議所議員として活躍し、大正七年組の劉子恩氏は同市清水町に住居し、成功者の一人。大正八年組の劉清風氏は錫五農場を経営し、蔡仲挙氏も事業界に雄飛している。

大正六組の黄三明氏は医科大学を卒え、現在は嘉義市にて開業し、徳生医院を経営している。

大正九年組には六名の卒業生があり、陳嘉得氏は医師として台北市で英安堂病院を経営し、陳瓊璿氏は台北市開南高業学校教諭、陳約瑟氏は台北市松山荘に住まい、張員氏は高雄市の殖産会社勤務、呉振緒氏は屏東に住し、林讚生氏は台北市に至って肥料公司を主宰している。

大正十年組の高天成博士は台湾大学医学部長、同附属病院長として令名があり蔣總統の侍医でもあった。人格高潔で学生を愛しよく後輩の面倒を見た。戦前戦後母校との連絡がとれない時代にあつても台北地区の校友をよくまとめたものも高博士であつた。惜しいことに二年前、地位人格両方からいつて校友や台湾では最高の人と言えるこの指導者は病死された。遺産は遺言により台湾大学へ寄附されたという。陳敦徳氏と黄文苑氏とは共に医学を研鑽し、前者は台北市で敦徳病院を、後者は彰化市で上池医院を経営している。

大正十二年組の朱江淮氏はさらに京大において工学部を卒業し、現在は台湾電力公司経

理の要職に在り、同社の技術者としては最高の地位に就き、副社長格である。去る八月六日夕、朱郎において前夜欠席の台北市在住の校友のほか、基隆、新竹市からの人々が出席され、戴伯福牧師（長老派の元老）陳諒奇政務部台北関吏、陳嘉音・李克承・李昆玉・李明適、顔春和の諸氏と飲談した。肩書を詳かにし得なかつた。

梁阿標氏は中学四年から予科に進み英文科を上野直蔵、堀数馬氏と共に卒業したが花蓮で長年中学校長をつとめ、退職後花蓮県議會議員となり、同地方指導者の一人として人望がある。

*

台湾支部にあつて現在の支部総元締は林金殿氏であり、名譽支部長格が朱氏であらう。

林氏は昭八年同志社高商を卒え、九州大学に学び、同女専出身の愛生夫人と相携えて帰台し、台北市助役たること拾余年、辞して野に下り甘露寺餐廳の社長として活躍、日台を往還して多忙である。また、台北扶輪社に属するロータリアンとして、この度、京都北ロータリークラブと姉妹関係を締結したのも彼の手腕による外はない。

彼の片腕として詹瑞錡氏（勝大貿易公司副総理、昭十三經濟卒）の努力を謝せねばならない。また、台北市に在つて有力な建設業者陳麗生氏（昭六申卒）は異色の人物である。同氏は、目下、台北駅前至高層の鉄筋ビルディング約八億円を建築請負中であるという。昭十二年林永芳氏は貿易業者として出色で、台北扶輪社員でもある。

大正十三年組に黄進元氏と郭頂順氏の二人がいる。前者は豊国商會を嘉義市において経営しつつあり、後者は台中市において豊原客運公司董事長をつとめ、私的交通機關の大御所である。在校中堀先生の指導をうけ教會のオルガンをひいていた彼が台中ロータリークラブの重鎮で財界の大立者となつてゐる。昭四申卒組の柯子彰氏は在学中ラグビーの名選手であつたが台中に住居し、台湾ラグビー協會のリーダーとのことである。李清折、丞永昌、黄順詔調満、頼清標氏など矢張り医師が多く、彰化県民政局秘書張其寿氏は官吏として良く同地校友会の幹事役である。昭十五申卒の曾煥然氏は最近二回、日本に来て農業の視察研究をし、長期研修会にも参加して日本農業技術の台湾導入をはかり、台湾農業の

近代化、増産、農民の生活指導等に尽している。

*

澎湖島の蔡崑崙、蔡团四兄弟は地方のため
に尽している。团四氏は澎湖県議会の副議長
を務めている。許寸金氏は校友会名簿にない
が、高雄市に、在任、医師会長。禅僧のよう
な風格がある。若手で昭和二十一年大学卒の吳
瑞南氏は蔡外科医院を支配し、飛龍治癌医院
長蔡飛龍博士は高雄市に、また嘉義市では盧
万徳、穆成章院長など医学界の現職者が多
い。また、名簿にのっているものに、昭二年
組では高瑞模（高雄県）高永寧（台南州）氏
があり、昭四年組、陳坤源（嘉義郡）、邱魏西
（台中州）、黄旗賢（台北市）氏が活躍し、昭
六年組、許鴻燦（彰化郡）陳新添（台中県）、
洪元約（台中市）氏が現在あり、林葆恭氏は
台中県で大甲歯科を経営し、また昭十五年組
黄藏卿、江宗裕氏も歯科医である。

後輩としては昭十二年中卒組の王義雄氏は
医博で、嘉義市に眼科専門となり、蔡金生氏
と共に旧師の恩義に感謝していた。

台湾省において、同志社人が天職として牧
師として靈の糧を養い、国手として仁術の使

命をはたし、教育畑としては有数の人材を輩
出した。しかも実業界に特異の存在があるこ
とも感謝すべきである。

順序不同で列伝としての内容に伴わず、粗

韓国 の 同志社 人

湯 浅 八 郎

世界の中の日本として明日の祖国を憂える
ものは、アジア諸国との外交、貿易はもとよ
り一層根本的な民衆と民衆との理解親善、融
和協力について心をいたすべきであることは
論ずるまでもない課題である。ところが事実
はわれわれ日本人は身近かな隣国についてさ
え余りにも無知であり、無関心である恨があ
る。私自身東洋各国の言語は何一つ出来ない
のである。またその歴史とか文化に関する知
識も極めて浅薄なものに過ぎないのである。

特に台湾とか韓国とかわが国と特別な歴史的
関係の深い隣国については、過去の因縁の故
に一応知っているようで実は一層現実の理解

枝大葉、杜撰の憾なきに非ず、台湾校友同窓
三百八十名の方々から忌憚なく叱正を賜わり
他日の完璧を期し度い。

（同志社理事長）

に欠けたるものがあるのではあるまいか。

私は最近十五日間京城を中心にして韓国を
旅行する機会を与えられたので、現在の韓国
の同志社校友・同窓の消息の一端を伝えたい
と思う。

*

私は戦前は三度、主として学術会議参加の
ため朝鮮に旅行した。戦後は今から六年前東
亜キリスト教主義大学総長会議に出席するた
め京城におもむき、今回はキリスト教主義教
育機関の現況調査と評価の国際委員会の一員
として渡韓したのであった。京城（もつとも
韓国ではこの京城という文字は現在全然使用

されていない。ソールという発音を韓文字で示し、その下に特別市と漢字をつけ加えている)につくと多分新聞でわかったのだから同志社学園同窓会の代表の方から電話で歓迎懇談会を催したいとのことなので十月二十三日日曜の夕を約束した。十五日間の日程中、この日曜の午後だけが私に許された自由時間であったが、朝九時から十二時まで今回の仕事の結論を梨花女子大学の総長邸でテープにレコードした後、延世大学校古代東洋史教授の閔泳珪博士の案内で寛勳洞中心に骨董屋を漁り廻った末、会場であるメトロ・ホテルに定刻五時を十五分ほど遅れてついたところ驚いたことには出席予定者中二三名を除いては既に私の来るのを待って居られた。晩餐の会場はホテルの九階特別室、窓外には南山を後に目下建築中の十三階のユネスコ・センターや反共十六ヵ国が協力して建築した十六階のフリーダム・センターなど、いずれも韓国の新しい国造りムードを反映するかのように京城の建築ブームを代表している。やがて街のネオンが輝きだしてソールは一見繁栄の現代都市の様相を呈してきた。実は六年前も同志社卒業生諸君が私を招待して一席をもうけ

て下さることになっていたのであるが、折しも折その晩、現大統領、当時の朴正熙少将の指揮したクーデターが勃発したため急に取りやめになったのであった。聞けば韓国には約百二十名の同志社卒業生や中退者がある由だが、その中約六十名が、ソール在住とのことである。その人たちは中学や大学をでた人も女子部の出身者もあるので、現在は男女合同で同志社学園同窓会が組織されており、ソール女子大学総長の高鳳京博士(昭和三年専攻英、同六年大法卒)が会長、金鍾烈、金元泰両氏が副会長、河奉律氏が幹事である。当夜の出席者は十八名、内三名は婦人であった。それは高会長のほか呉春庚(昭八女専攻)工大教授夫人と金光子(昭二八女専英、大阪在住)さんたちであった。出席者はいずれも現在、韓国の実業界や政界や教育界において指導的な重責を帯びた人達であって、皆母校同志社に深い関心をよせておられるのである。朴忠勳氏は現内閣の商工部長官(商工大臣)として韓国の経済国策推進の中心人物である。文熙奭氏は元文教部長官(文部大臣)で現在は国防大学院教授で、韓国戦略研究会々長でもある。季漢彬氏は韓国大使としてスイスに在駐

した外交官で現在はソール国立大学行政大学院長である。鄭寅祥氏は弁護士、金約耳氏は韓国人権擁護協会事務局長。金元泰、宋外胤、金鐘列、河奉律、劉寛祐、梁麟鉉の諸氏はいずれも実業界の有力者である。学者教育家としては延世大学校神学部教授徐南同氏、中央神学校教授金俊氏、淑明女子大学校教授李祿氏、建国大学校教授尹日燁氏などである。これらの有力者は母校の九十周年記念募金運動のことはきいてはいたが、最近まで日本へ送金することが許されなかった関係もあって充分協力もできなかったが、いずれは応分のことはしたいとのことであった。また連絡のため校友会や同窓会の名簿も入手したく、同志社時報とか、同志社タイムスなど定期刊行物はそのつどもれなくレギュラーに郵送して欲しいとのことであった。季漢彬大学院長は韓国は一九六〇年をさかいとして全く一新したと、日本はこの歴史的事実を認識すべきことを強調され、同志社に韓国講座を開設して韓国の歴史、文化、言語などの研究と教授につとめ、更に現代の諸問題に関する認識と理解を深める必要を指摘せられたが、私は全く同感である。私は既に数年前わが国の諸大

学に卒先してこの目的のために国際基督教大学において韓国講座を開設し、韓国人教授を招聘し、留学生を迎え入れたが、同志社もまたこの問題を真剣に考慮すべきであろう。日韓両国の将来のために同志社当局に強く訴える次第である。

*

最後に、私は高女史が献身的苦闘をつづけてその発展と経営とに精進しておられるソール女子大学について感想を述べたい。韓国の首都京城には二つの偉大なキリスト教主義大学が存在する。その一つは嘗ての文部大臣、上院議長であり最近民衆党の大統領候補を辞退した白堊濬博士を名誉総長とする延世大学校であり、他の一つは世界最大の女子大学、七十年の歴史を誇る梨花女子大学校イロー。



ウーマンス・ユニバシティである。この女子大学は世界的に有名な高い金活蘭博士（ヘレンキム女史）が長らく総長をつとめ、八千を越える女子大学生をもち、医学部から陶芸科まである総合大学である。これに反し高博士のソール女子大学は規模は小さく学生数は定員六四〇名に満たないが、その使命は大きく、いくつかの特色を備えている注目支援に値する教育機関である。

第一そのキャンパスはすばらしい。都心から自動車で五〇分はかかる郊外の白砂青松の丘陵地帯に位置したこのキャンパスは清浄静閑な絶好の教育環境である。第二に在学生の数は人格主義教育に適當なものであり、その全寮制とある程度の労働奉仕制とはユニークなものである。第三に教育のコースは多少の偏向があるにしてもいづれも韓国民衆の生活に直結するよう工夫せられ、乳牛や野菜園の実習を課している農村科学科もある。第四に学生は各自が自己批判して修養につとめる自己採点制を採用している。第五に学生は週末にはそれぞれ寄宿舎をでて家庭に帰り家族や友人との人間関係を温め、社会の実生活からの遊離を防いでいる。第六に酒や煙草は禁じ

られているが、学園内のダンスパーティなどにはボーイフレンドを招待できるなど、近代的な自由な雰囲気がある。そして前近代的な韓国のいわゆるミツションスクールの殻から解放されている。第七に高総長はじめ十人の教授とその家族がキャンパスに居住していて常に学生との個人的な接触や指導につとめている。私はこのような有意義な特色をもつ私学の経営に苦心に苦心をかさねて、時には精根つき果てる思いですという高女史の悲壮な告白をきいて、このすぐれた女子教育家に衷心から敬意と同情と感謝とを捧げずにはいられないのである。同志社がこのような韓国女性を卒業生の中に数えることができるのは、まさに母校の誇りであり光栄であるというべきではあるまいか。今度の韓国訪問は短日時ではあつたが同志社学園同窓会の会員諸賢の祖国の新しい国造りに対する大きな貢献と期待とについていささかながら聞知することができたのは誠に望外の幸であつた。ここに同窓会の皆様のご厚情を鳴謝し、神の御祝福を祈念してこの小文を結ぶことにする。

（元総長・国際基督教大学名誉総長）